

令和3年度校内研について

南部町立南部中学校

1. 研究主題 「気づき・考え・表現し合える生徒の育成」

2. 研究副主題 『「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけて』

3. 研究主題・副主題設定の理由

研究主題は以前より「気づき・考え・表現し合える生徒の育成」と設定してきた。

副主題に関しては、3年前より『「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけて』と設定し、研究を重ねている。生徒たちがこれからの時代を生き抜くためには、答えのない問いに対して、主体的に考え、他者と協働しながら自分たちなりの答えを見つけ、実践していく必要がある。そのために必要な資質・能力が「気づき・考え・表現しあえる力」であり、その基盤となる授業改善や授業づくりを、校内研を通して進めていきたい。

3年前より、新学習指導要領が要求する「主体的・対話的で深い学び」とは何か、そのとらえ方を議論しあうところからスタートし、特に「主体的・対話的」な学びの実現にむけて授業を見直した。さらに単元構想を作成することで、生徒たちが「気づき・考え・表現し合える」力をつけることができると考え、校内研を進めてきた。

これまでの「主体的・対話的で深い学び」の研究を生かしながら、今年度も授業改善を行い、研究を深めていくことをめざして、本副主題を設定した。

4. 研究仮説

「主体的・対話的で深い学び」についての理論研究を深め、ICT活用や集団づくりについての校内研修を実施し実践につなげ、さらには授業実践に学びながら授業改善を推進することにより、新しい時代に必要とされる資質・能力が育成される。教職員にとっては、「主体的・対話的で深い学び」とはどのような学びなのか、授業実践や単元構想を通して明確になり、授業力の向上につながる。それによって「気づき・考え・表現し合える生徒」が育成されていくであろう。

～「主体的・対話的で深い学び」のイメージ（文科省作成資料より）～

【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。

【対話的な学び】

子ども同士の協働、教員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。

【深い学び】

各教科等で習得した概念や考え方を活用した「見方・考え方」を動かせ、問いを見いだして解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想、創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。

5. 研究の内容

(1) 理論的研究…文献、先行実践の学習会

文科省の資料や様々な書籍等において、「主体的・対話的で深い学び」について発表されている。また、様々な先行研究、先行実践が存在している。それらをもとに、全体で、さらに教科内研究会やブロック研究会を開き、教職員が学びあい、共有し合う。

(2) 授業実践…研究授業、一人一実践

「主体的とは」「対話的とは」「深い学び」とはどのようなことをいうのか、そのためにはどのような手立てが必要なのかなどを教科でさらに共有しあい、それらに基づいた授業実践や研究授業を行う。特に今年度は、昨年度の継続に加え、「ICTの活用」にも積極的に取り組んでいく。また、教科ごと「単元構想」の作成と、「山梨スタンダード」を意識した授業改善を通して、研究主題の実現をめざす。

(3) 研修の実施…ICT活用、集団づくり

昨年度のまとめの中で、ICTの活用と集団づくりの重要性が確認された。また、研究と研修を分けて考えることが提案された。それら意見を踏まえ、校内研究で目指す授業改善につなげていくために、理論的研究よりも実践につなげやすい、研修を企画し実施していく。

6 研究組織

